

# SHOWKEYシネマール

★★★

## 1941 モスクワ攻防戦 80 年目の真実

2020 年 / ロシア映画  
配給: アルパトロス・フィルム / 142 分

2021 (令和 3) 年 9 月 7 日鑑賞

オンライン試写

### Data

監督: パディム・シメリエフ

脚本: パディム・シメリエフ、イゴール・ウゴルニコフ

出演: アルチョム・グビン / リュボフ・コンスタンティノワ / イ

ゴール・ユディン / アレクセ

イ・バルデュコフ / エフゲニ

ー・ディアトロフ / セルゲ

イ・ベズルコフ / ロマン・マ

ディアノフ / エカテリー

ナ・レドニコワ / セルゲイ・

ボンダルチュク

### ■ショートコメント■

◆日本にとって、2021年12月8日が真珠湾攻撃80年目の年なら、ロシアにとって2021年10月は、モスクワ攻防戦80年目の年。トルストイの小説『戦争と平和』で描かれたように、ロシアはナポレオンのモスクワ遠征を退けたが、怒濤の侵攻を続けるナチス・ドイツからもモスクワを防衛した。

「スターリングラードを死守せよ」との命令の下で起きた、1942年の“スターリングラードの戦い”は、映画『スターリングラード』(01年) (『シネマ1』8頁) でよく知られている。それに対して、1941年10月2日から42年1月17日にかけて、モスクワ近郊で戦われた、“第二次世界大戦の流れを変えた”とも言われる“モスクワ攻防戦”とは？

◆ポドリスク兵学校士官候補生のラヴロフ (アルチョム・グビン) とディミトリ (リュボフ・コンスタンティノワ) らは将来のソ連陸軍の幹部になるべき人材だから、しっかり教育して育て上げるのが国家の義務。司馬遼太郎の『坂の上の雲』を読むまでもなく、戦前の日本では、陸軍士官学校や海軍兵学校はエリート中のエリートが行くところだが、それはソ連も同じだ。

もっとも、彼らはまだ若いだけに、やんちゃもすれば、看護師のマーシャ (イゴール・ユディン) を巡って恋のさや当ても。しかし、1941年10月にナチス・ドイツの大軍がモスクワを目指して進撃してくると・・・？首都陥落の危機を逃れるためには、イリンスコエ防衛ラインの死守が不可欠だから、増援部隊が到着するまで敵を喰いとめるには、彼らの動員も・・・？

◆『あゝひめゆりの塔』(68年) では、ひめゆり部隊の絶望的な任務遂行の姿が描かれ (『シネマ47』245頁)、韓国映画『戦火の中へ』(10年) では、浦項 (ポハン) 女子中学における学徒兵71名の死闘が描かれていた (『シネマ26』104頁)。また、韓国映画

『長沙里9. 15』（19年）では、訓練期間わずか2週間、平均年齢17歳の学徒兵772名の運命の死闘が描かれていた（『シネマ47』221頁）。

しかして、本作ではポドリスク兵学校士官で訓練中だった士官候補生たち3500名の死闘が描かれるが、彼らはどんな気持ちでイリンスコエ防衛ラインへ？そして、3人の若き主人公たちの生死は？

◆2001年の9. 11同時多発テロから20年を経た今、一方では米国軍のアフガンからの撤収を巡って大混乱が起き、他方では9. 11同時多発テロに関する機密文書の開示が始まっている。それと同じように、本作は近年、ロシア国防省が機密解除した文書、資料に基づき脚本が作成されたい。そのため、激戦の地イリンスコエ前線のあった地に、村、道路、橋、人工の川といったレプリカが、当時の航空写真に基づいて正確に復元。ソ連・ドイツ両軍の戦車、装甲車、大砲、航空機などの兵器は、博物館に保管されている本物が使用されているようだ。

しかして、スクリーン上に見る、その全貌は？

◆『戦争と平和』は、ナポレオンのロシア侵攻・モスクワ侵攻という時代背景の中で、ピエール、アンドレイ、ナターシャという3人の主人公の人生観（世界観）を描いた大河小説。したがって、そこではナターシャを巡る男同士の葛藤や、一方は軍人として、一方は貴族としての男の生き方の違い等々がトルストイ流の哲学で描かれていた。

他方、戦闘シーンでは、アウステルリッツの戦いとボロディノの戦いを中心とする大迫力の地上戦に見るナポレオンの戦い方が描かれると共に、戦略的にはあえてナポレオンをモスクワに誘い込み、冬將軍の到来を待つという、老練なロシアのクトゥーゾフ將軍の思想が見事に描かれていた。

しかし、本作はWikipediaで数十ページにわたって解説されている“モスクワの戦い”を描くもの！『1941 モスクワ攻防戦80年目の真実』という邦題を見て私はそう思っていたが、『戦争と平和』並みに(?)最前線に赴いた後も、ラヴロフとディミトリがマーシャを巡る恋のさや当てを続ける姿が描かれるからアレレ……。私が本作で見たいのはそれではなく「モスクワ攻防戦80年目の真実」だが……。

◆『あゝひめゆりの塔』のひめゆり部隊は全滅、『戦火の中へ』の学徒兵も全滅した。さらに、『長沙里9. 15』の学徒兵も全滅してしまったが、これらはすべて、もともと成功の見込みのない全滅覚悟の作戦だった。しかし、本作で“国家の宝”とも言うべきポドリスク兵学校の士官候補生を大量にイリンスコエ防衛ラインに動員したのは、少なくとも建て前上は、増援部隊が到着するまでのやむを得ない処置。ナチスの戦車の前に士官候補生たちは次々と戦死していったが、増援部隊やソ連の戦車部隊が到着すれば、イリンスコエ防衛ラインの死守は可能なはずだ。

モスクワ防衛に成功し、ナチス・ドイツを追い返したことは歴史的にはっきりしているから、私が本作で本当に知りたかったのは、まさに「モスクワ攻防戦80年目の真実」。し

かして、本作に見る派遣された士官候補生3500名の運命と若き主人公3名の運命は？  
2021（令和3）年9月8日記